

「竹子小学校の竹子棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

霧島市立竹子小学校

2 学年・人数

3年生から6年生まで18名

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年9月～11月 計6回 竹子小学校 体育館・校庭

(2) 発表の日時・場所

令和5年9月24日（日）竹子ふるさとウォーク

令和5年10月1日（日）本校 秋季大運動会

令和5年11月23日（木）溝辺町文化祭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

竹子棒踊り（たかぜぼうおどり）

(2) 由来

竹子棒踊りの起源は、島津義弘公の朝鮮出兵前後にあるといわれ、豊作祈願の舞として古くから竹子校区内の各集落で踊られてきたものである。保存会の指導の下、竹子小の児童も踊りを継承し、運動会では30年間、踊り継いでおり、地域の伝統をつなぐ踊りとなっている。

(3) 構成等

かすりの着物に五色の飾りを付け、頭には鉢巻き、手には4尺の棒を持ち、4人一組で踊る。扇子を手につけて声とともに入場し、「ソッソッソッ」と勇ましい掛け声を出しながら、跳び跳ねたり、背中を反らしたり、棒を左右、前後の人と叩き合わせたりするなど、複雑な動作で踊りが展開する。

5 保存会や地域との連携の具体

竹子地区の棒踊りは、かつて青年団を中心に踊っていたが、現在は保存会が継承し、地域行事等で披露されている。「小学生にも踊りを引き継いでもらおう」ということで昭和61年頃に当時の保存会が小学生へ指導を始め、昭和63年には運動会で棒踊りを披露し、それ以来、平成29年度まで続いており、その歴史は30年程で、学校・地域の特色ある伝統の踊りとなっている。平成26年には、10年程途絶えていた地域での棒踊りが復活し、その方々が小学生の指導にも携わっている。平成28年には、入場から踊りまで大人と全く同じ複雑な踊りを取り入れ、運動会では大きな拍手をいただいた。4人一組で踊る関係上、小学生の人数が不足する分には保存会のメンバーが入り、大人と小学生が一体となった踊りが展開され、伝統継承を踊りで披露した。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

小学生の竹子棒踊りの動きは、平成27年度までは、地域の大人の踊りの動

きを簡略化したもので踊っていたが、平成 26 年度に地域の棒踊り保存会が約 10 年振りに復活したのを契機に、平成 28 年度の運動会から大人と全く同じ動きで踊るようにした。9 月に入るとすぐに保存会の指導を仰ぎながら練習を開始し、腰の曲げ方、膝の折り方など細かな点にも気を配って踊るように留意した。4 人一組で左右、前後の人との棒の打ち合いや、棒で脚を払う動作、4 人が棒の先を合わせて地面に打ち下ろす動作など、めまぐるしい複雑な動きで、前・後半で展開される踊りは、後半に入るとより掛け声も大きくなり白熱した踊りとなる。地域民にとっても、大人と同じ伝統の踊りが継承される様子を見て、大変嬉しそうであり意義あるものとなっている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



↑ 保存会の方との練習（体育館にて）

↑ 溝辺文化祭での披露

↓ 運動会での披露



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

今年も高学年の児童を中心に練習を重ねるとともに、保存会の方に全体指導をしていただいた。「難しかったけど、練習すればするだけ上手に踊れるようになってきた。」「初めて文化祭で披露するから緊張する。」など、子供同士で学び合う楽しさや達成感を十分に感じとっている。運動会での披露後は、「緊張したけどやり遂げられた。たくさんの大きな拍手をもらって嬉しかった。」などの感想があった。

また、4年ぶりの開催となった文化祭では、保護者から「これまでの中で、とても素晴らしい踊りだった。」等の声が聞こえてきた。教職員からは「竹子の伝統の踊りが晴れ舞台で演じられるのはいいこと。難しい動きがあるが練習すれば必ずできる。これからも特色として大事につないでいきたい。」との感想が出ている。地域の歴史と伝統をつなぐ竹子棒踊り。これからも地域、学校の誇りとして継承していきたい。